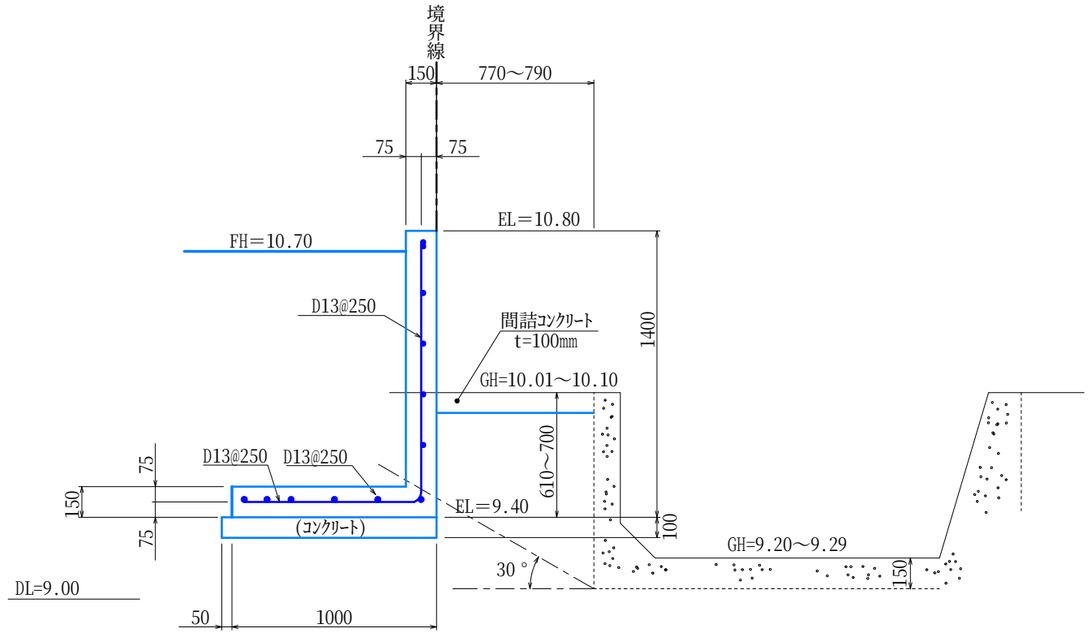
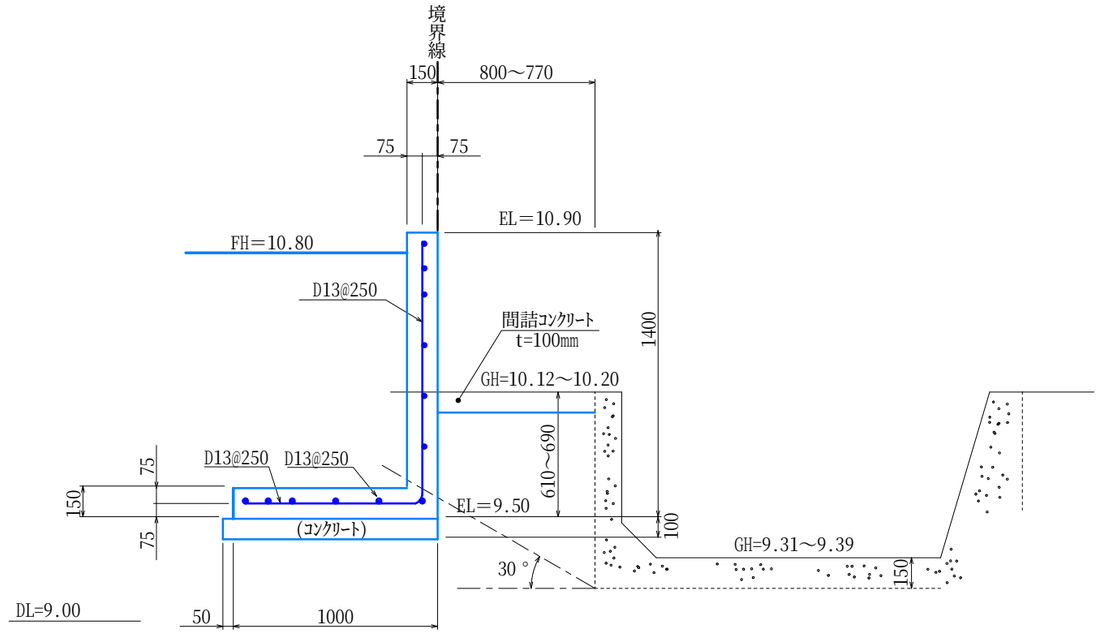
構造図 - 1

S=1:30

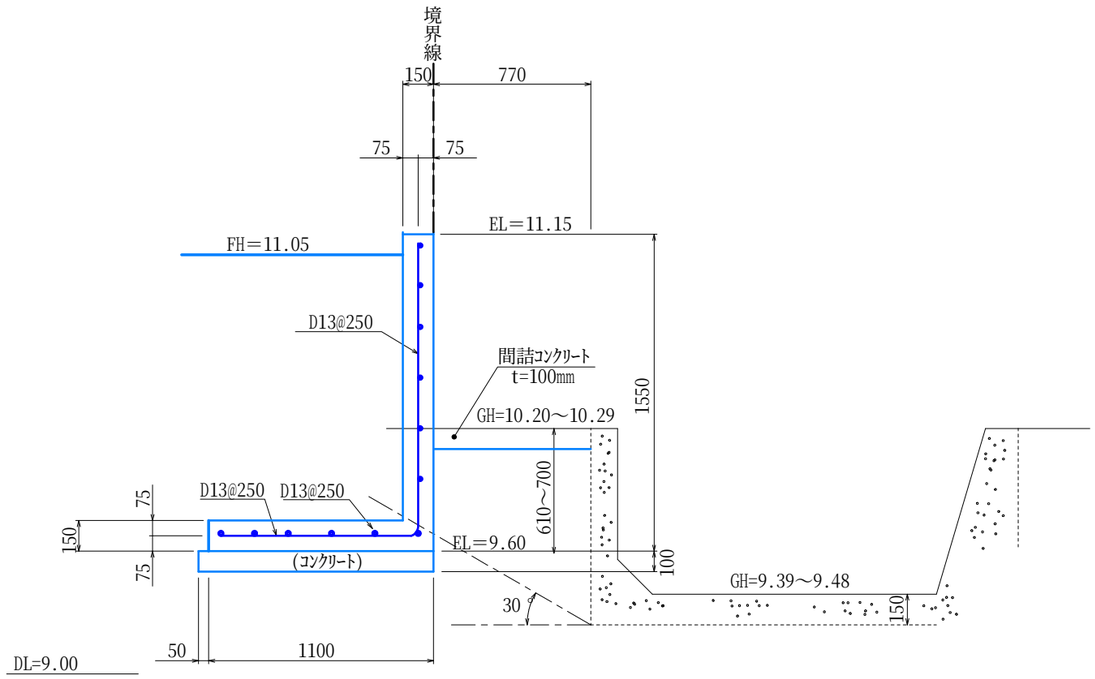
1号L型擁壁



2号L型擁壁



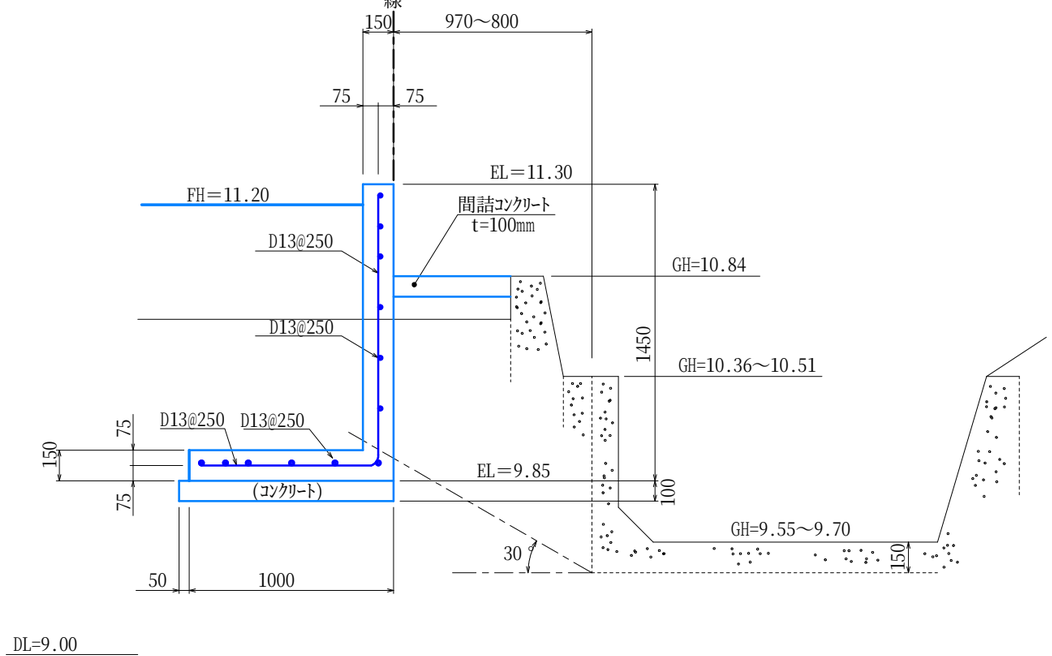
3号L型擁壁



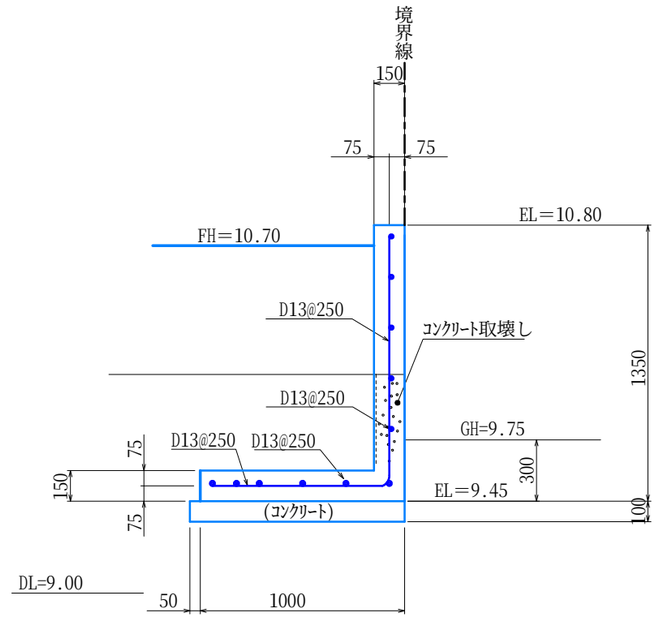
所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 1	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

構造図 - 2 S=1:30

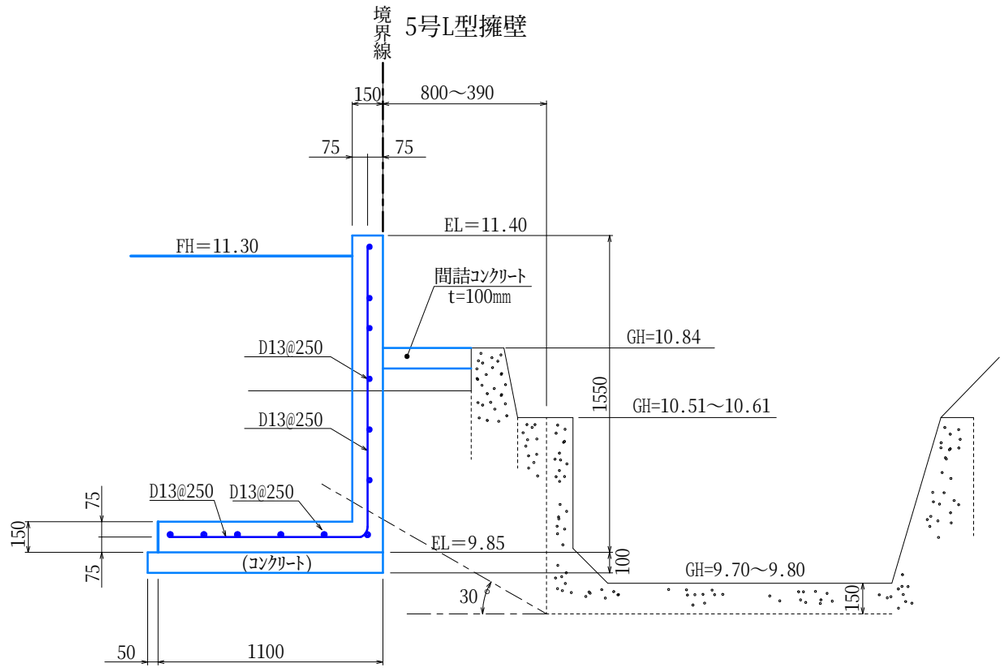
4号L型擁壁



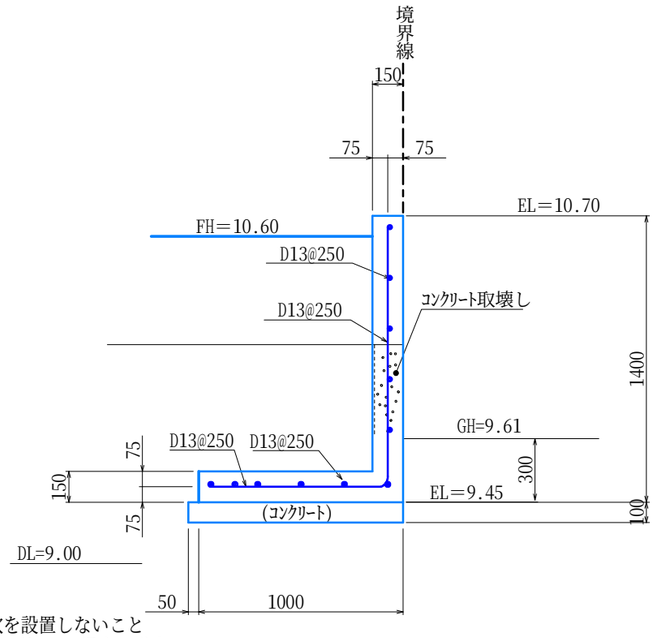
6号L型擁壁



5号L型擁壁



7号L型擁壁



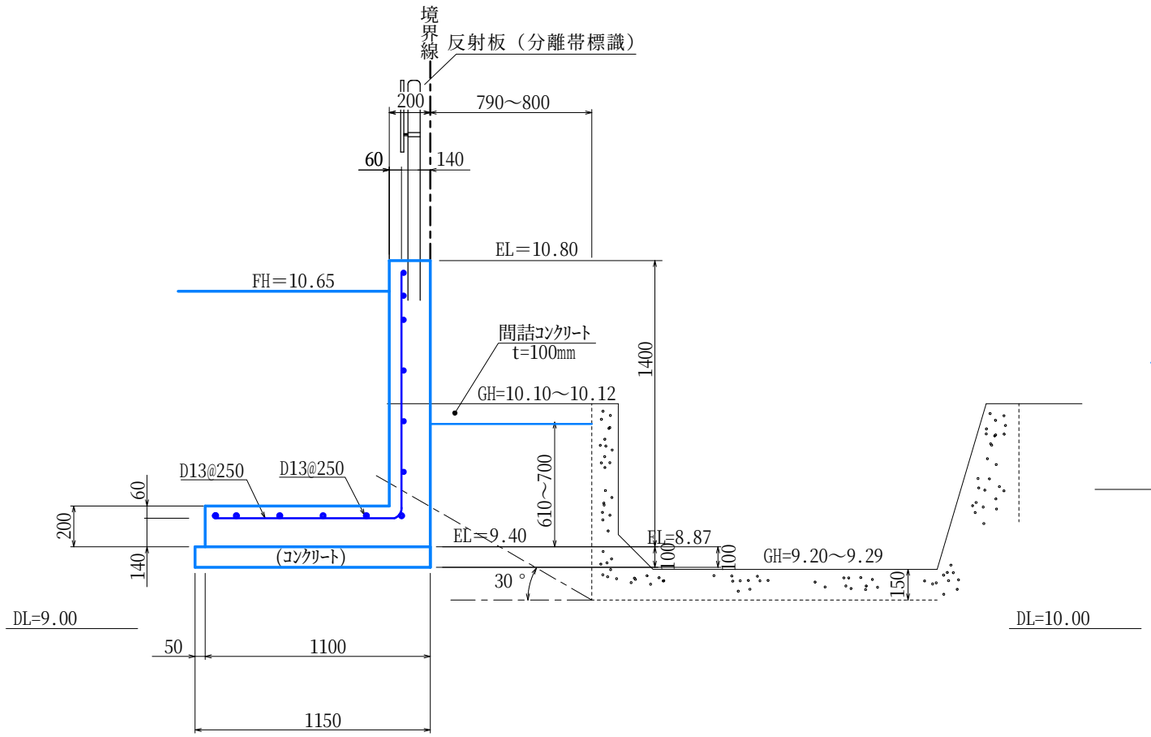
※　鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※　止水板(CF-150)と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※　地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること

※　天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※　既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※　コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σｃｋ＝１８Ｎ／mm²）とする
※　コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σｃｋ＝２４Ｎ／mm²）とする

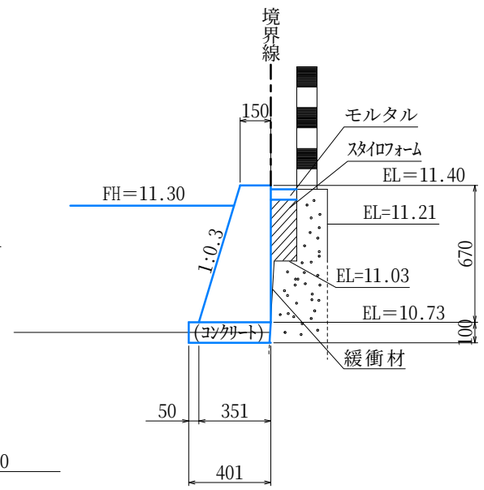
所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 2	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

構造図 - 3 S=1:30

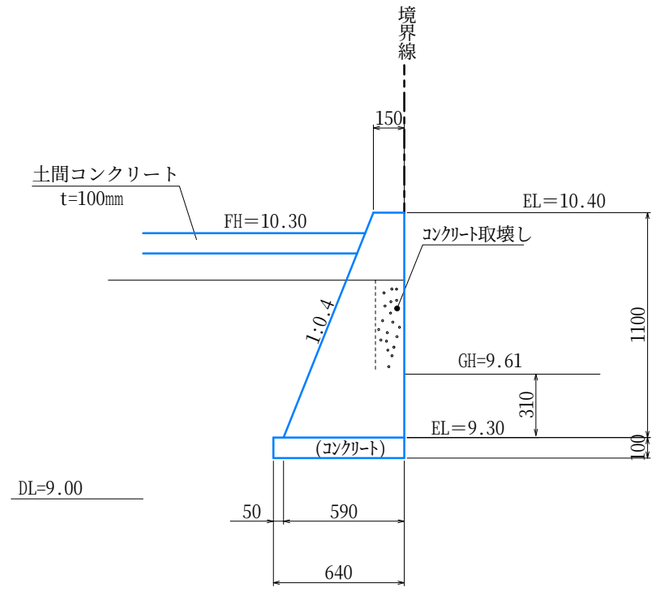
8号L型擁壁



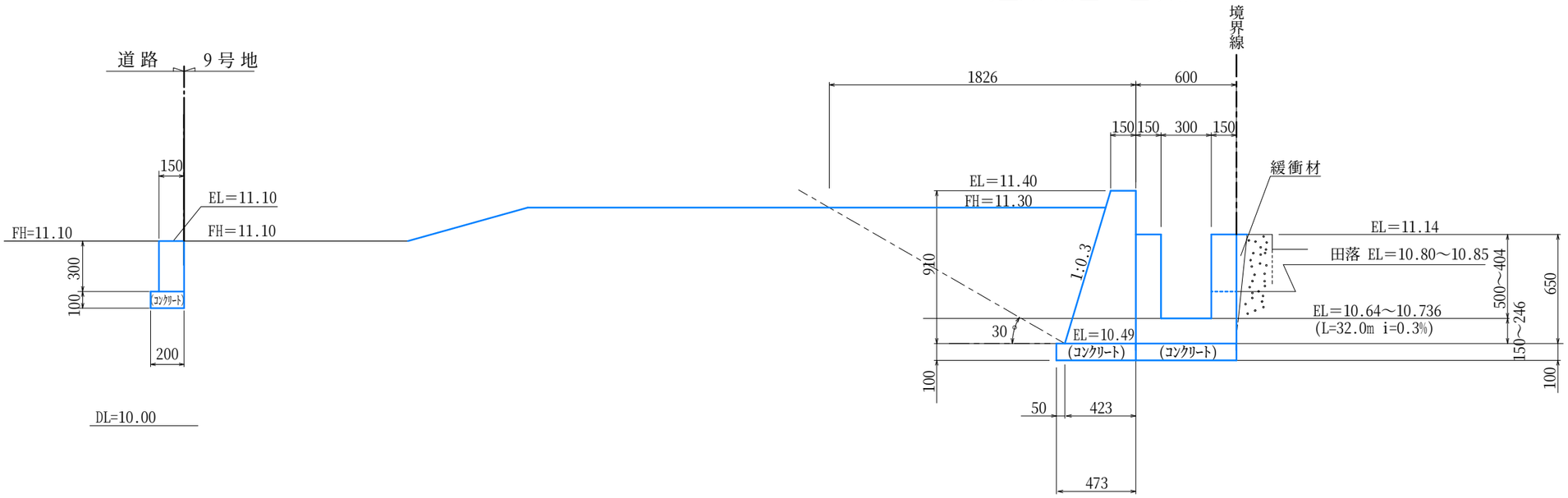
2号重力式擁壁



3号重力式擁壁



1号重力式擁壁・U型水路



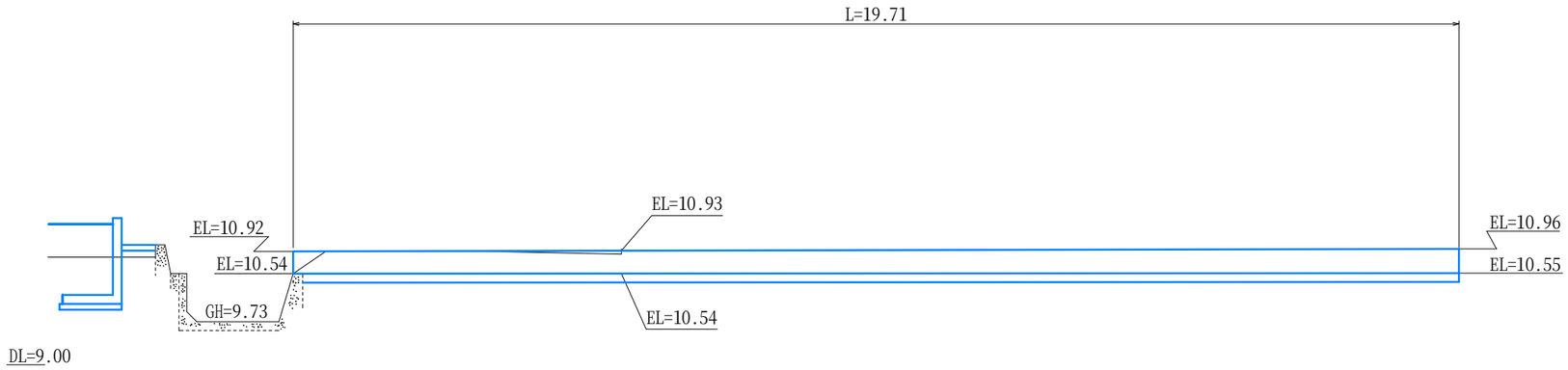
※ 鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※ 止水板(CF-150) と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※ 地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること

※ 天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※ 既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※ コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σck＝１８N／mm²）とする
※ コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σck＝２４N／mm²）とする

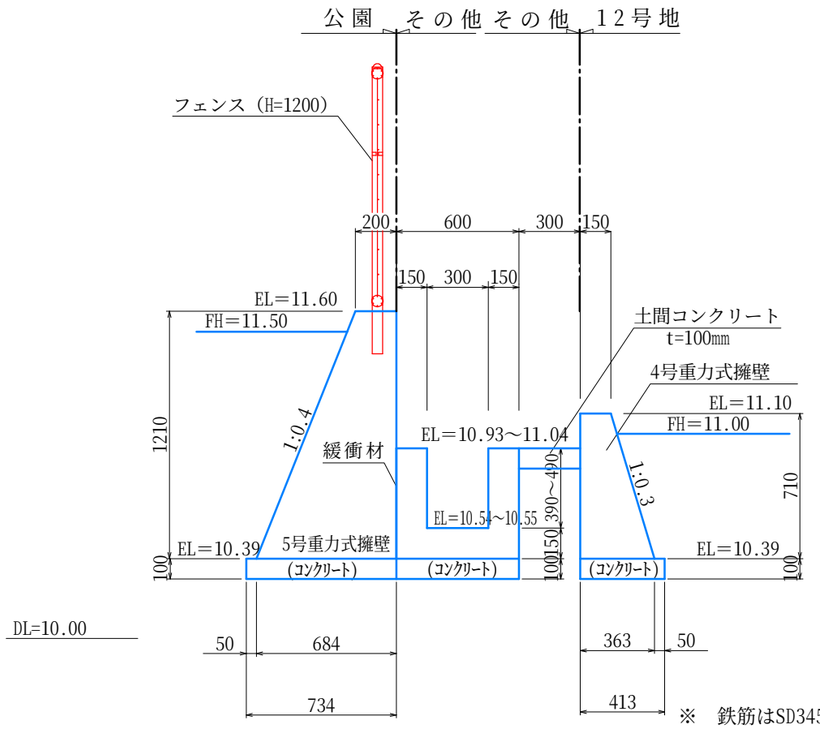
所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 3	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

構造図 - 4 S=1:30

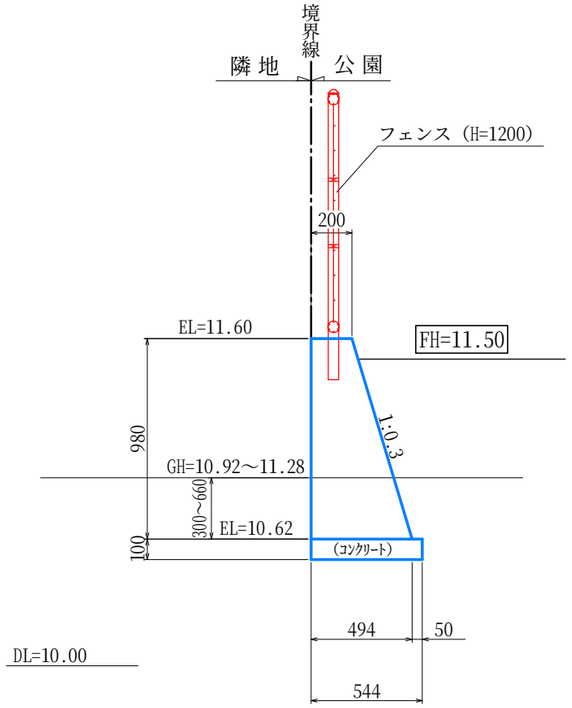
2号U型水路 S=1:100



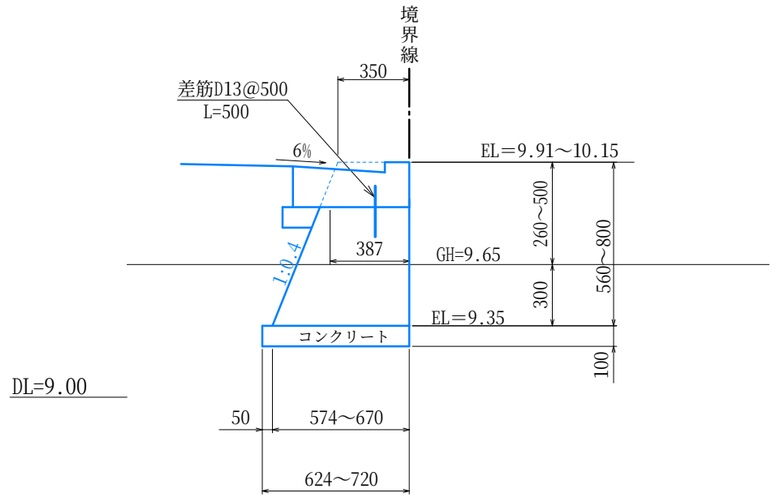
5号重力式擁壁・2号U型水路・4号重力式擁壁



6号重力式擁壁



7号重力式擁壁



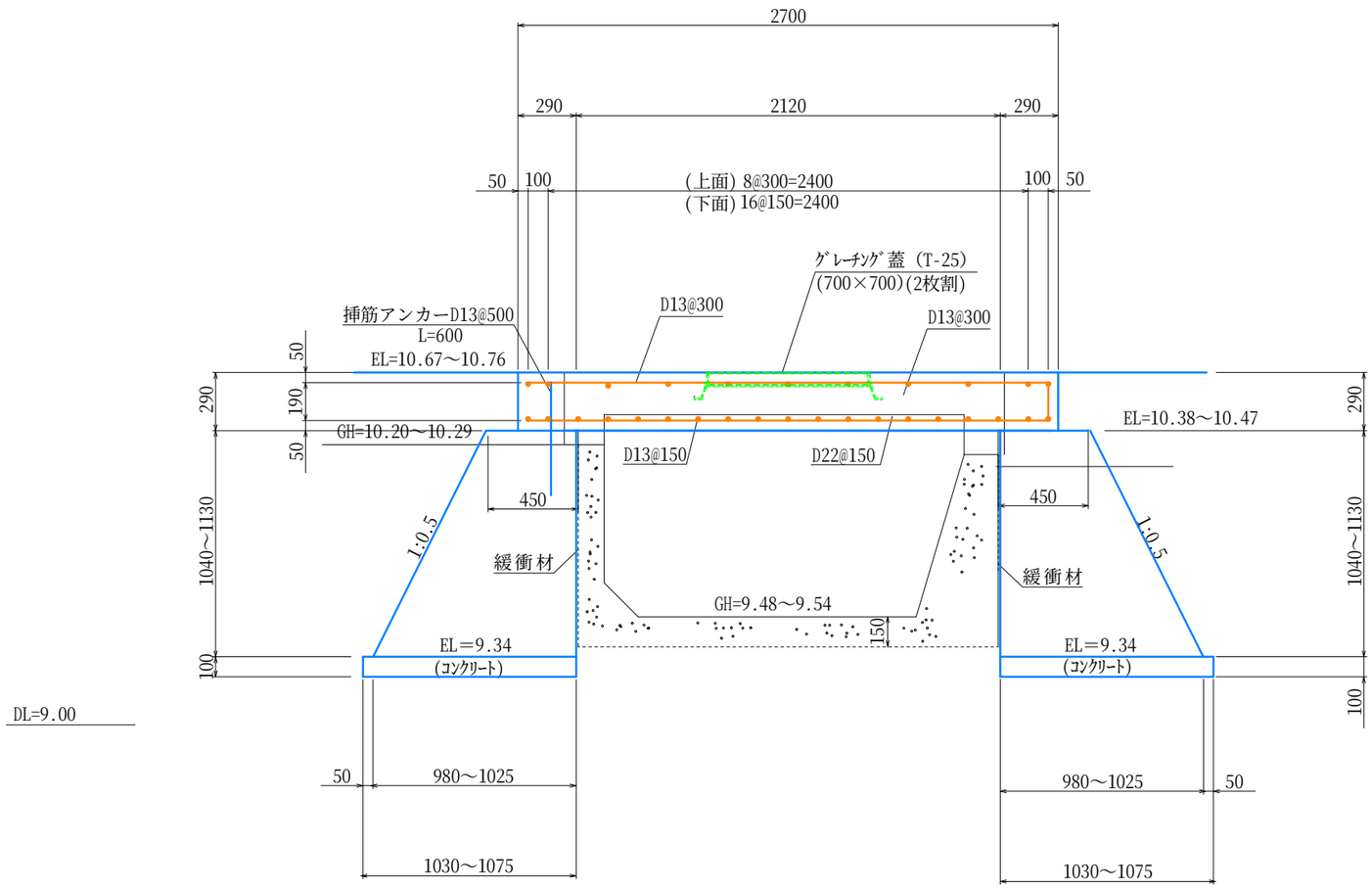
※　鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※　止水板(CF-150）と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※　地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること

※　天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※　既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※　コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σck＝１８N／mm²）とする
※　コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σck＝２４N／mm²）とする

所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 4	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

構造図 - 5 S=1:30

9号重力式擁壁 S=1:30
床版工



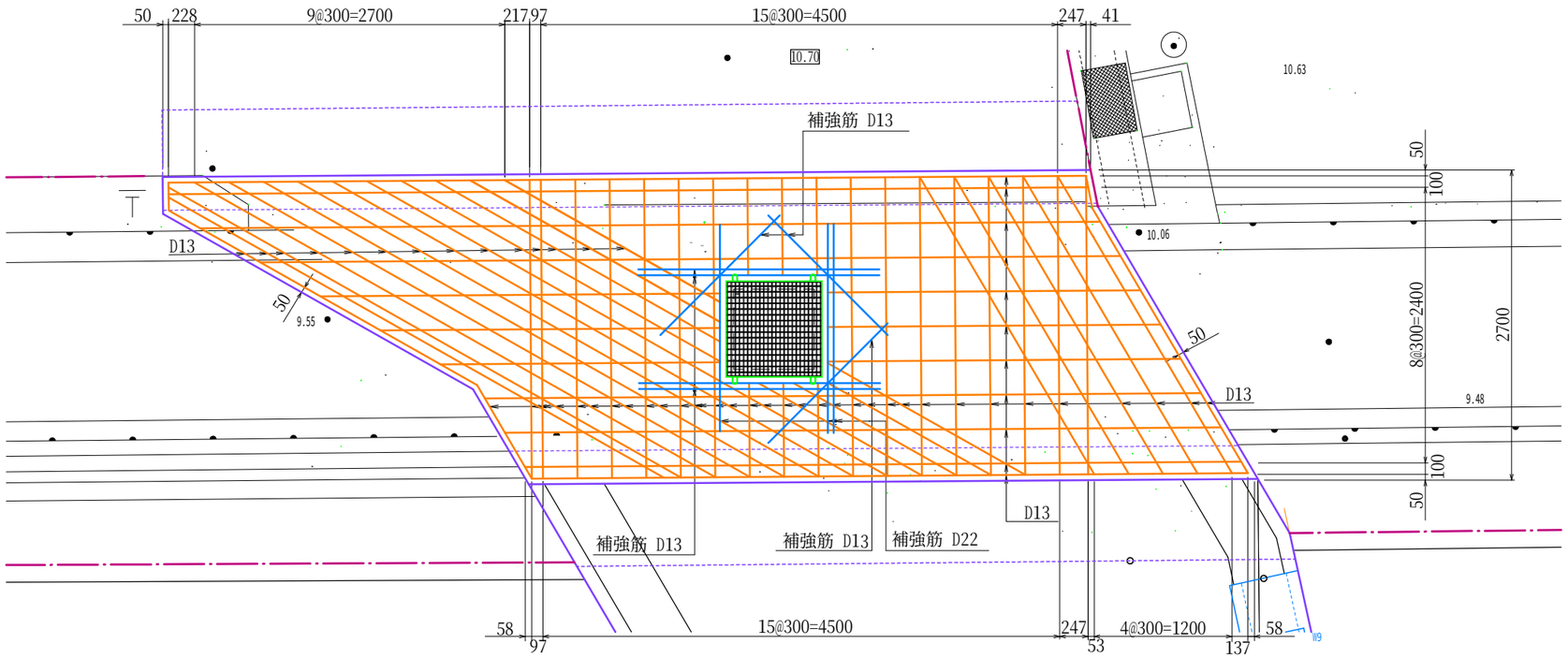
※ 鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※ 止水板(CF-150) と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※ 地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること

※ 天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※ 既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※ コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σｃｋ＝１８Ｎ／mm²）とする
※ コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σｃｋ＝２４Ｎ／mm²）とする

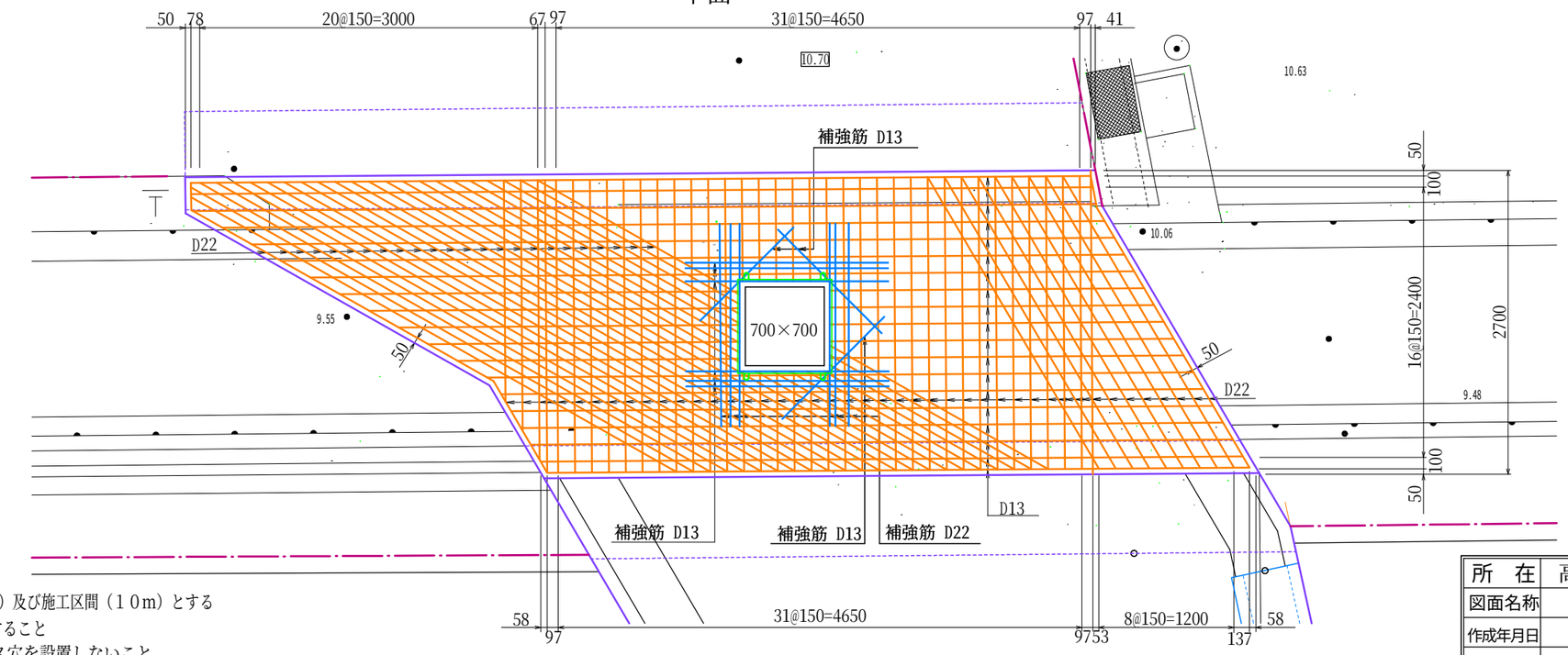
所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 5	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

構造図 - 6 S=1:50

上面



下面



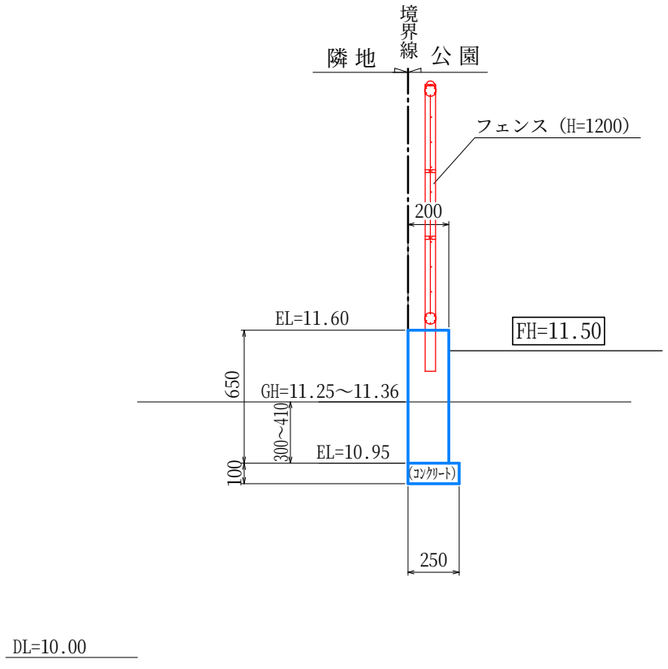
※ 鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※ 止水板(CF-150)と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※ 地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること
※ 天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※ 既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※ コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σck＝１８N／mm²）とする
※ コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σck＝２４N／mm²）とする

所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 6	縮　尺	1：50
作成年月日	令和６年４月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

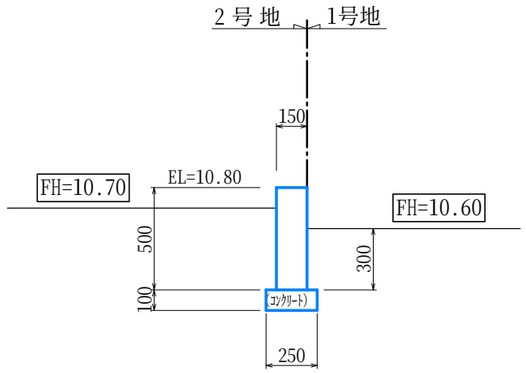
構造図 - 7

S=1:30

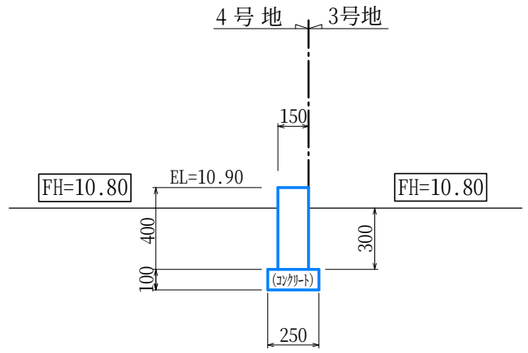
1号境界工



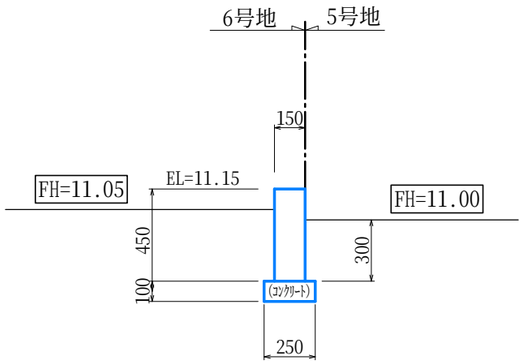
2号境界工



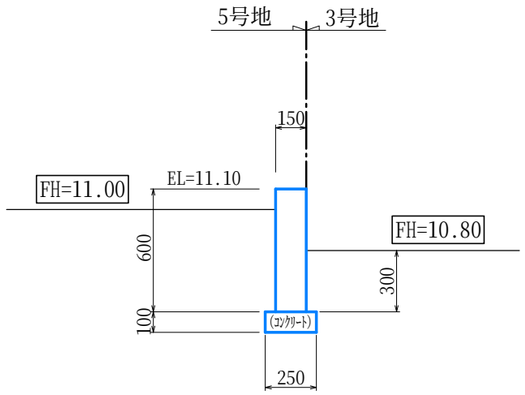
3号境界工



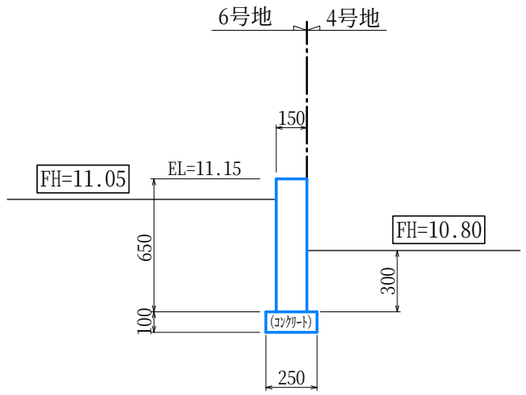
4号境界工



5号境界工



6号境界工



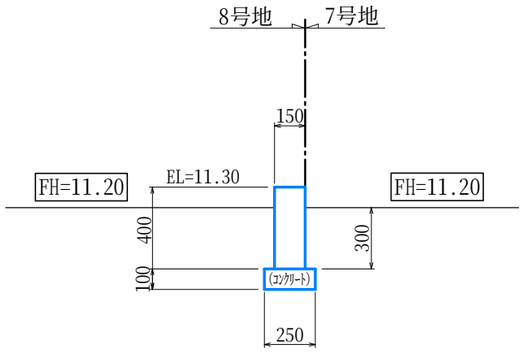
※　鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※　止水板(CF-150）と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※　地盤反力が100kN/㎡以上であることを確認すること

※　天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※　既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※　コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σｃｋ＝１８Ｎ／mm²）とする
※　コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σｃｋ＝２４Ｎ／mm²）とする

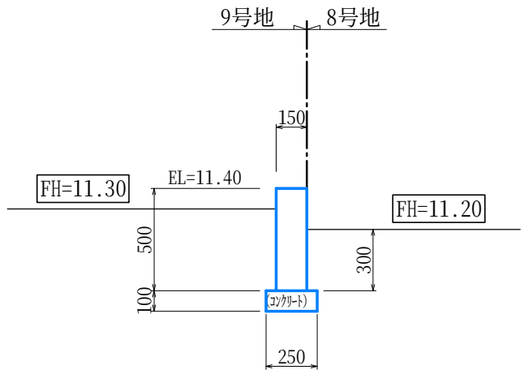
所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 7	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年３月１８日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

構造図 - 8 S=1:30

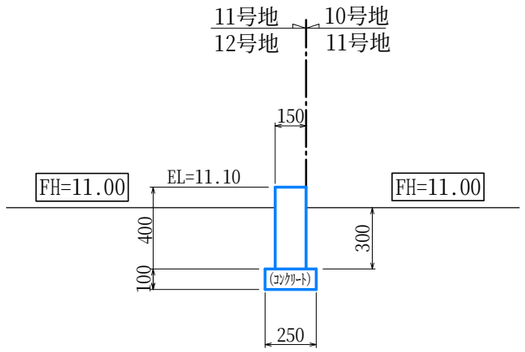
7号境界工



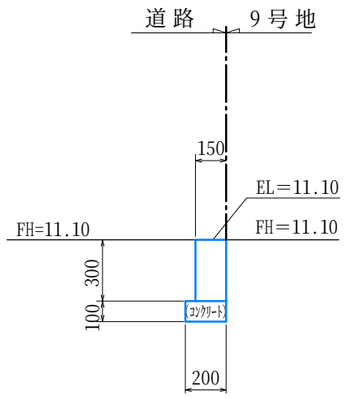
8号境界工



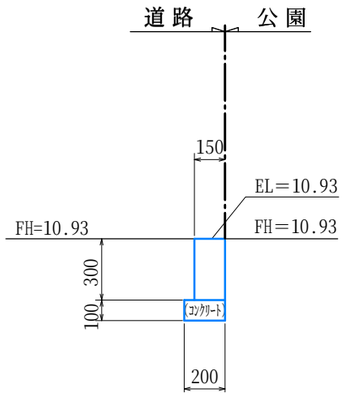
9号境界工



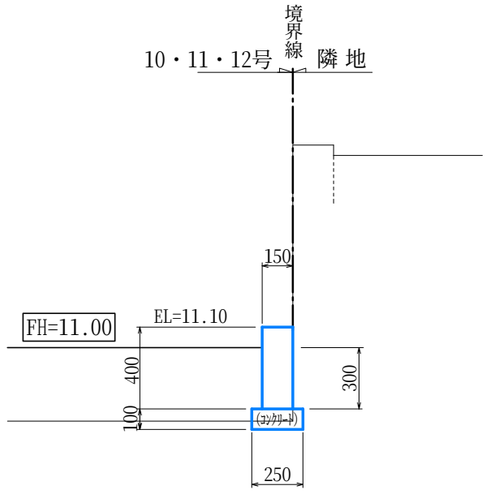
10号境界工



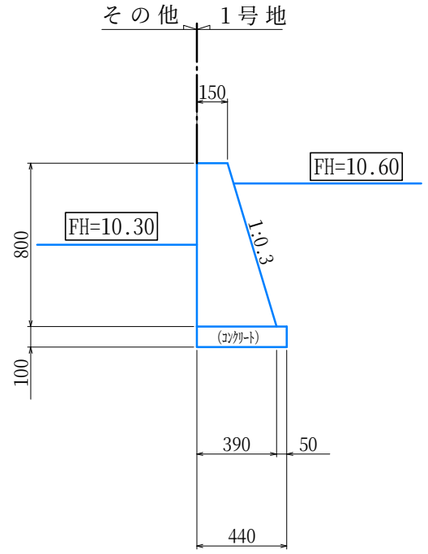
11号境界工



12号境界工



8号重力式擁壁



※　鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※　止水板(CF-150）と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※　地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること

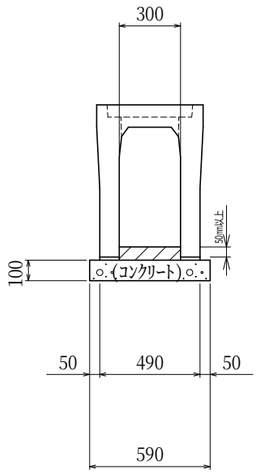
※　天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※　既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※　コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σｃｋ＝１８Ｎ／mm²）とする
※　コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σｃｋ＝２４Ｎ／mm²）とする

所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 8	縮　尺	1：30
作成年月日	令和６年３月１８日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

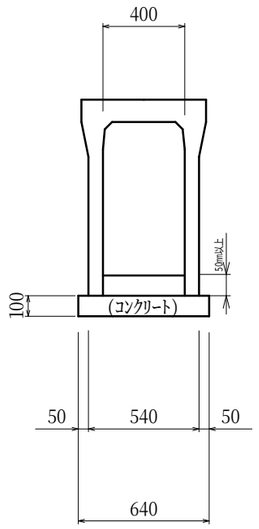
構造図 - 9

S=1:30

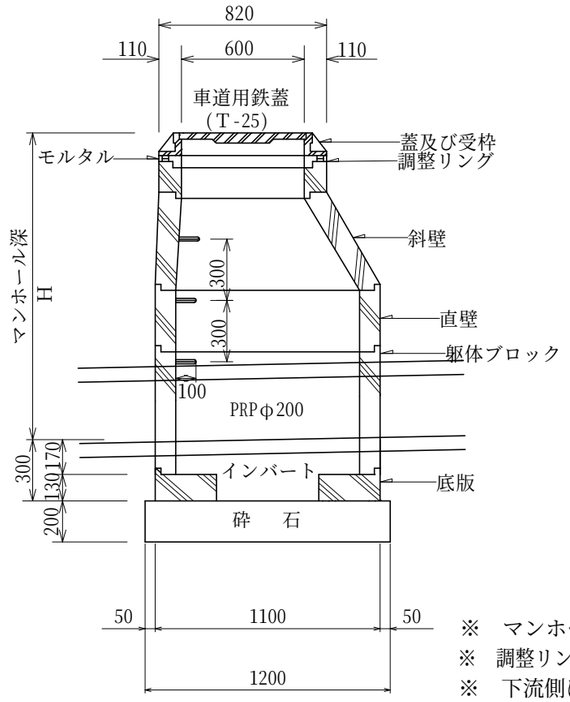
自由勾配側溝
(300×400～500)



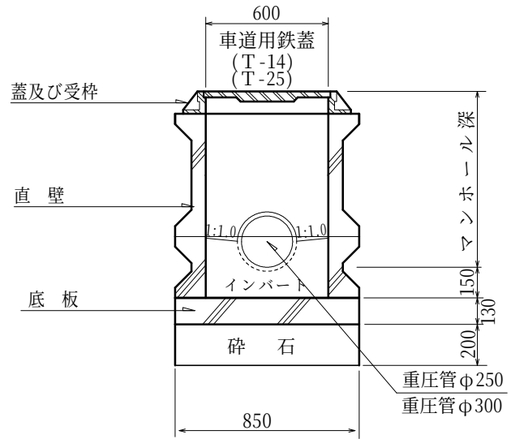
自由勾配側溝
(400×400～500)



1号マンホール標準断面図

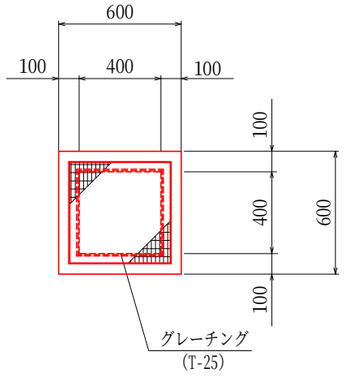


掃除桝標準断面図

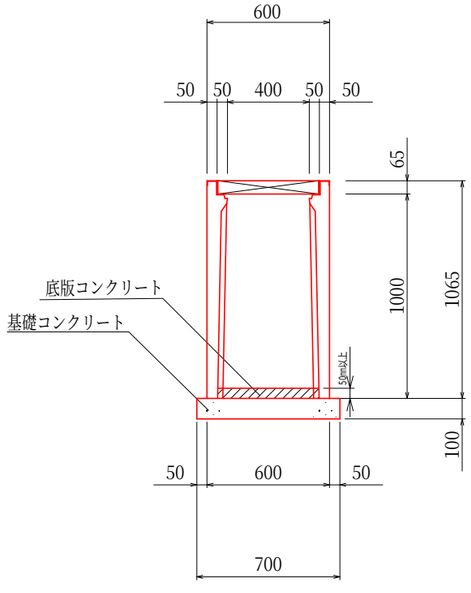


※　マンホール蓋のデザインは市指定品とし浮上防止型とする
※　調整リングによる調整は最大H=200mmまで、調整モルタルによる調整は20mm～69㎜の範囲とする
※　下流側にステップを設置すること

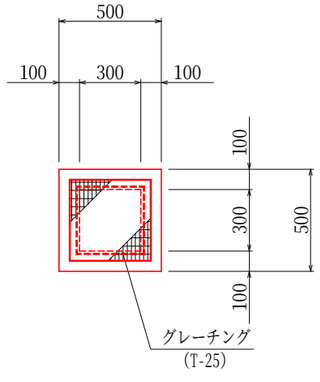
1号集水桝
400×400×1000
平面図



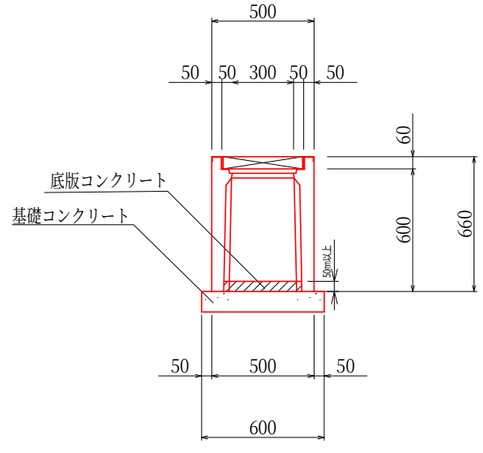
断面図



2号集水桝
300×300×600
平面図



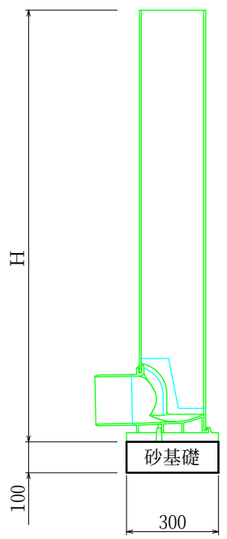
断面図



所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図 - 9	縮　尺	1:30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		

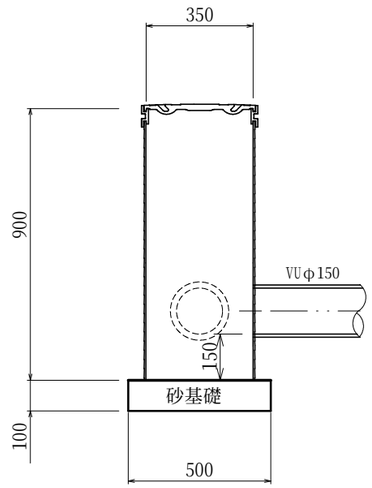
構造図-10 S=1:20

宅内汚水桝



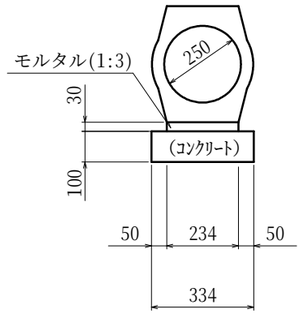
(桝の深さH＝1.2m以下はφ200)
(H=0.2m以下はφ300)

宅内雨水桝

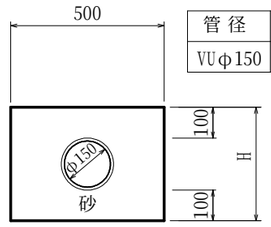


(桝の深さH＝0.8m以下はφ300)
(H=0.8m～0.9mはφ350)
(H=0.9m～1.0mはφ400)
(H=1.0m～1.2mはφ450)

重圧管
(φ250)

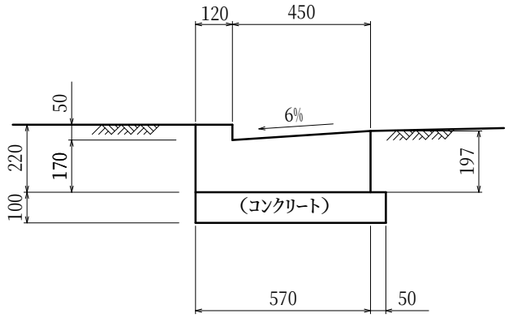


塩化ビニール管取付管布設基礎



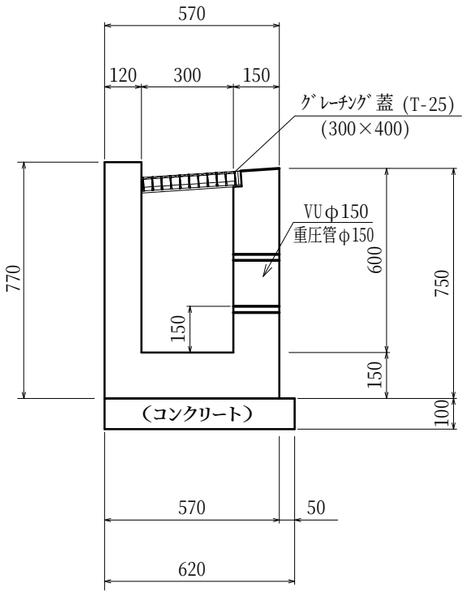
管 径	H(mm)
VUφ150	370

L型側溝

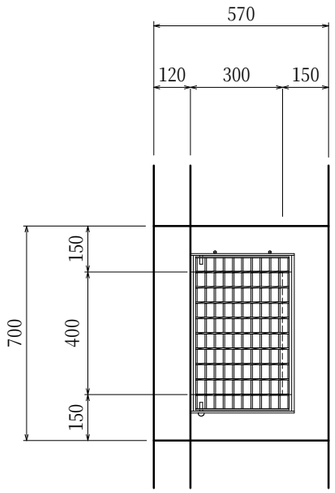


街渠桝（標準断面図）

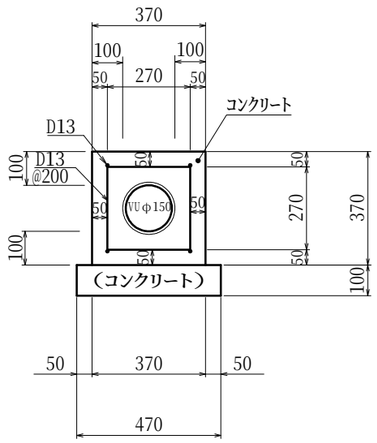
断面図

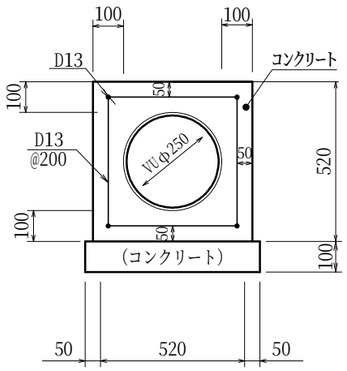


平面図



管巻図





※　鉄筋はSD345とし定着長は35Dとする
※　止水板(CF-150) と伸縮目地の厚み（１０mm）及び施工区間（１０m）とする
※　地盤反力が100kN/m²以上であることを確認すること

※　天端幅150mmの擁壁については、フェンス穴を設置しないこと
※　既設水路や均しコンクリート等が新設擁壁に干渉する場合は撤去すること
※　コンクリートの設計強度は、無筋コンクリート構造物（σck＝１８N／mm²）とする
※　コンクリートの設計強度は、鉄筋コンクリート構造物（σck＝２４N／mm²）とする

所　在	高松市仏生山町字大塚		
図面名称	構造図-10	縮　尺	1:30
作成年月日	令和６年５月９日		
作成者	高松市三谷町１８９１番地４ 土地家屋調査士　多田幸広		